

11/23 (月・祝) **スペシャル音楽祭「MATSURI」**
 マツリ
 ～松山市民会館50周年記念～

「blast!」参加の日本人メンバーが結成した「踏音アーキペラゴ」、和太鼓奏者・日野一輝さん、津軽三味線奏者・堀尾泰磨さん、シンガー・青野紗穂さんら和洋のアーティストを迎え、音楽祭を開催します。北条高校吹奏楽部や伊豫之國松山水軍太鼓保存会らとの共演も。この機会に国内外のトップアーティストの演奏に触れてみませんか。

日時 11月23日(月・祝) 14時～(開場は13時15分)
会場 松山市民会館(堀之内) 大ホール
料金 一般3,000円(当日3,500円)、高校生以下2,500円(当日3,000円)、立ち見1,500円(当日のみ)

チケット販売所 松山市民会館、総合コミュニティセンター、北条スポーツセンター、北条体育館、いよてつ高島屋、フジグラン松山、EBCチケットセンター、チケットぴあ、ローソンチケット、dチケット
 ※駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用ください
 ※詳細は松山市民会館ホームページhttp://www.cul-spo.or.jp/mcph/を確認

「踏音アーキペラゴ」とは平成15～26年の日本ツアーで観客動員100万人以上を記録した「blast!」。そのメンバーであったスネアドラマー・石川直さんを中心に、世界で活躍する国内トップクラスのメンバー10人で構成。ジャンルを越えた本物の音の融合は必見・必聴。



三味線奏者 堀尾 泰磨さん
 和太鼓奏者 日野 一輝さん



シンガー 青野 紗穂さん

特集 **市民の文化とともに 松山市民会館50周年**



市民の日ごろの文化芸術が披露され、またイベントや式典などさまざまな催しが開催されてきた松山市民会館が、1965(昭和40)年7月のオープンからちょうど50年を迎えました。

私たちのホームグラウンド
 当劇団は創設した昭和61年以来、「一流」の演劇にこだわってきました。全公演の85%を市民会館で行っている。まさに私たちにあってのホームグラウンドです。特に中ホールは日々磨きあげた演技者の表情や細やかな芝居を最も堪能していただける理想的な広さの会場です。公演に際し、施設職員の方々が親身に協力してくれて、大道員さんとは違いながら、数々の公演

を成功させてきました。これだけ要望をかなえてくれる親切さと技術を持ったあたたかい会場はなかなかないと思います。市民会館を使われている他団体の人は昔からの顔なじみが多く、それだけ長きに渡り愛されてきた証地です。これからも大切に使い続けたいと思います。

常設の能舞台が松山の能楽発展に寄与
 小ホールの能舞台は公営施設に常設されるものでは当時全国に先駆けたものでした。私も子どものころから毎年この舞台で演じ、さまざまな思い出があります。松山は江戸時代から、能楽が盛んで、現在でも地元の人だけで能が催せるなど、地方都市の中でも人材が豊富だと思っています。市民会館の完成前は市や民間の施設で仮設の舞台を組んでいましたが、常設の能舞台があることで毎年多くの演

能や稽古ができ、それが松山の能楽の継承・発展につながったと思います。能舞台の設置に関わられた多くの皆さまに感謝するとともに、今後は子どもたちにもぜひ能舞台に足を運んでもらいたい、全国に誇る松山の能楽を受け継いでほしいと願っています。

日ごろの実力が発揮できる環境
 当団体は昭和58年に設立し、今年で32年目になります。オペラを中心に質の高い公演ができるよう日々精進しています。市民会館は設立当初から毎年開催している公演でよく利用していますが、オペラ団体にとってホールは必須。普段利用している中ホールは響きや大きさが程よく、日ごろの実力を発揮できる環境がそろうと感じています。公演の準備や進行にあたっては、施設の職

員が同じチームであるかのように親身になって協力してくれるのがとてもありがたいです。今後33、34年と重ねていけるよう市民会館とともに歩んでいければと思いますので、今後も変わらぬご支援をお願いします。

松山市民会館ぜひご利用を

コンサートから各種大会までさまざまなイベントに対応できる大ホールや、中ホール、能舞台がある小ホールを完備。ほかに市民サークルの練習の場としての練習室やリハーサル室、講演会・研修会などが開催できる会議室などがあります。ぜひ、ご利用ください。



利用時間帯 全日=9～22時▶午前=9～12時▶午後=13～17時▶夜間=18～22時
休館日 毎週火曜日(休日の場合は開館)
申し込み 次の手順で行ってください①つばきネットホームページhttp://www.yoyaku2.city.matsuyama.ehime.jp/で空き状況を確認(利用者登録が必要)②大・中・小ホール



写真で振り返る 松山市民会館
 市民の文化水準の向上を目的に、多くの市民の要望を受け、昭和38年11月に着工し、総工費約6億2千万円をかけた昭和40年7月に完成しました。地階と地上四階、2,000人収容の大ホールと750人収容の中ホールをはじめ、最新式の音響や結婚式場を完備。建築の粋を集め、豪華絢爛を極めた設備は当時「西一」といわれました。

